

体育科学習指導案

令和4年11月4日5校時
6年2組 指導者 熊谷太志
場所 校庭(雨天：体育館)

【授業の視点】

チームの特徴に応じた作戦を選ぶために、作戦ボード・ワークブック・児童用端末を活用して、作戦やゲームの動きを確認できるようにしたことは有効であったか。

I 単元名 ゴール型「タグラグビー」

II 考察

1 学習指導要領上の位置付け

領域名 E ボール運動

【知識及び技能】

次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをすること。

ア ゴール型では、ボール操作とボールを持たない時の動きによって、簡易化されたゲームをすること。

【思考力、判断力、表現力等】

ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

【学びに向かう力、人間性等】

運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。

2 単元について

本単元では、タグラグビーを扱い、チームの特徴に応じた作戦を選び、メインゲームに楽しく取り組む学習を設定した。その価値は以下の通りである。

《単元を通して資質・能力を育成する上で大切にすること（価値）》

ア（知識及び技能）

- ・ タグラグビーのルールを理解し、相手をよけながら走る、パスをする、タグを取るなどの基本的な動き方を知ること。

イ（思考力、判断力、表現力等）

- ・ ゴールにボールを持ち込むために、パスをする場所、タイミングなどを考えること。
- ・ 仲間と一緒に作戦を立て、試合後振り返る中で、よかったところ、反省点などを考えたり、伝え合ったりすること。

ウ（学びに向かう力、人間性等）

- ・ タグラグビーを楽しみ、進んでボールを動かすこと。
- ・ タグラグビーのルールを守り、仲間の考えや取組を認め、試合の勝敗を受け入れること。
- ・ 試合をする上で周囲に危険なものがないかなど安全に気を付けて取り組むこと。

この学習は、今後、ゴール型の球技の学習へ発展する。

3 本単元に関わる児童の実態

(1) これまでの学習

5年生の時、児童は、ゴール型「タグラグビー」に取り組んでおり、基本的なドリルゲームから、審判をつけたメインゲームまで挑戦し、楽しく活動することができた。また、6年生では、同じゴール型「バスケットボール」で、実際に作戦を選び、試合をしてみることに挑戦している。しかし、メインゲームを行う上で、その作戦が有効であったかを考察したりする力やチームの特徴に合った作戦を選ぶ判断力は、まだ不十分であると考えられる。

(2) 本単元に関わる実態

(知識及び技能)

バスケットボールでは、ドリブルとシュートを混ぜたサーキットを繰り返し、多くの児童が繰り返し取り組んでいる様子を見ることができた。また、スポーツテストにおいて、反復横跳びの記録が全国平均より高いことから、瞬発力が優れているといえる。アンケートでは、「タグラグビーのルールを理解しているか。」の問いに対して、ほぼ全員が「あてはまる・ややあてまはる」と回答し、5年生までに取組んだタグラグビーのルールの理解はできていると考えられる。また「基本的なパスやタグの取り方を知っている。」という問いでは、同じくほぼ全員が「あてはまる・ややあてまはる」と回答し、多くの児童が基本的な動きについても理解できていることが分かった。

(思考力、判断力、表現力等)

6・7月に行ったゴール型「バスケットボール」の授業では、提案された作戦を用いたメインゲーム、自分たちで考案した作戦を使ったメインゲームなどに取り組んだ。試合後の話し合いや授業終末の振り返りの中では、「この作戦は、攻めやすいけどボールを取られやすい。」や「この作戦は、シュートがたくさん打ちやすい。」などと作戦の特徴を総括する姿が見えた。しかし、「作戦通りに動くことができなかった。」、「この作戦は、パス回しが難しい。」など作戦を立て、ゲームをすることに自信がない児童もいた。また、タグラグビーのアンケートでは「ボールを持っていて、敵に囲まれてしまった際に、どのように動くか分かる。」「ボールを持っていない時にどのように動くか分かる。」という問いには、2割が「ややあてはまらない。あてはまらない」と回答し、思考力、判断力、表現力などを活用することに自信を持っていない児童もいることが分かった。

(学びに向かう力、人間性など)

普段から、ドッジボールやサッカーなどのボールを使ったスポーツを中心に外遊びを楽しんでいる様子が見られる。授業のバスケットボールの振り返りでは、「チームと協力して勝つことができたよかった。」などゲームを意欲的に取り組んでいる姿も見ることができた。また、アンケートの「タグラグビーは、好きですか。」という問いに対しては、8割が「好き」と答えていて、全体的に意欲が高いことが考えられる。理由として、「体を動かすのが好き」「友達と協力して試合ができる」が上位に挙げられていた。その一方、「嫌い」とする児童は、主に「ボールをたくさん触らないといけないから」「作戦を考えて動くのが難しいから」を理由として挙げている。

Ⅲ 目 標

1. タグラグビーにおけるボールを持っているときと持っていないときの動きを理解し、ルールに従ってボールを動かすことができる。
2. ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自分や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
3. 場や用具の安全に気を配ってタグラグビーをする中で、その楽しさや喜びを味わい、ルールを守り助け合って取り組んでいる。仲間の考えや取組を認め、勝敗を受け入れている。

Ⅳ 単元（題材）の評価規準

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①タグを取られるまで前に進んだり、タグをとって相手を止めたりできる。 ②ボールを持ったときにゴールに体を向けることができる。 ③作戦に基づいて味方にボールを手渡したり、パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりできる。 ④空いている空間を見つけて移動し、仲間と連携できる。	①攻めを行いやすいようにするなどの規則を選んでいる。 ②自分の役割を理解し、チームの特徴に応じた作戦を選んでいる。 ③相手を抜くための作戦（個人技・集団技）を考えたり、紹介したりしている。	①練習やゲームに進んで取り組もうとしている。 ②規則を守り、協力しようとしている。 ③用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑤話し合いで積極的に発言し、友達の考えや取組を認めようとしている。 ⑥場や用具の安全を確かめている。

Ⅴ 指導方針

- ・ 児童が見通しを持ちながら学習活動に取り組めるようにするために、毎時間の授業のスケジュールを貼っておく。
- ・ 攻撃と守備、それぞれの役割への理解を深めていけるようにするために、ゲーム中に何度も攻守交替する、4タグ攻守交替ルールを設定する。
- ・ 視覚優位な児童もルールを把握したり、理解を深めたりすることができるために、ルールや準備の仕方などをまとめたワークブックを使用する。
- ・ 児童が試合中に作戦と動きをセットで覚え、活用できるように、ワークブックに作戦の動きを記述する。
- ・ 作戦の理解を深め、自信をもって活動に参加することができるようにするために、児童用端末に「ルール動画」「攻撃・守備・審判の動き方の解説動画」「作戦のお手本動画」をアップし、いつでも参照できるようにする。
- ・ 場の安全を確保するため、コート内に水筒や探検バッグ、筆記用具を置いたままにしないよう指示する。

- ・ 作戦を立てる際に、チーム全員の動きを理解した上で話し合いができるように、作戦ボードを使用する。
- ・ 前時の振り返りからより有効な作戦を立てられるように、前時のメインゲームの様子を児童用端末に配信し、チームの中で作戦通りに動いていたかを確認する。
- ・ 児童がルールの理解をより深めるために、自分たちで審判させる。

VI 指導と評価の計画 (全7時間計画、本時は6/7)

過程	時数	◎ねらい めあて ○主な学習活動	☆振り返り (意識)	◇評価規準 (評価方法)		
				知識・技能	思考・判断 ・表現	主体的に学習に取り組む態度
つかむ	1	◎お試し試合を通して、タグラグビーへの関心を高め、単元の見通しを持つ。 ○相手をよけながら走る、パス、タグを取るなどの基本的な動きを理解する。 タグラグビーのルールを知り、お試し試合を楽しもう。 ○ラグビーボールの持ち方、話を聞くときの姿勢などの約束を知る。	☆たくさんトライをしたい。 ☆これから、たくさん作戦なども立てながらやってみたい。 ☆ルールがたくさんあって少し難しいな。			◇ゲームを進んで取り組もうとしている。態①(観察) ◇規則を守り、だれでも仲良くしようとしている。態②(観察・ワークシート)
追及する	2	◎メインゲームを通して、タグラグビーの理解を深める。 ○一つのチームが実際に試合をする様子を見て、ルールを理解する。 ルールの理解を深め、敵がいる時にどんなことが変わるのか知ろう。 ○タスクゲームをもとにしてボールの動かし方を学ぶ。	☆敵がいるとなかなかトライできないな。 ☆守備チームはボールの動きを見ながら、タグをとる必要があるな。	◇タグラグビーの行い方について、言ったり書いたりしている。知①(発言・ワークシート)	◇攻めを行いやすいようにするなどの規則を選んでいる。思①(観察・カード)	
	3	◎提示された作戦を使い、メインゲームに取り組むことができる。 3つの作戦をチームの中で取り組んでみよう。	☆サイドパス作戦は、目の前にいる敵がいなくなるとよいな。 ☆交差作戦は、スピードがあつて、ボールがとられにくいな。	◇ボールを持ったときにゴールに向かってボールを動かすことができる。知②(観察)		◇ゲームの勝敗を受け入れようとしている。態④(観察)

まとめる	4	<p>◎3つの作戦の良さを理解し、メインゲームで使うことができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">3つの作戦をメインゲームで取り組んでみよう。</div> <p>○作戦を実行した際に、どのようにボールが運ばれるかを想像して、作戦づくりをすることができる。</p>	<p>☆自分たちで作戦を考えるのは難しいな。 ☆この作戦は、相手からボールがあまりとられなくていいな。</p>		<p>◇自分の役割を理解し、チームの特徴に応じた作戦を選んでいく。思②(観察・ワークシート)</p>	<p>◇友達の考えを認めようとしている。態⑤(観察)</p>
	5	<p>◎自分たちでチームに合った作戦を選び、メインゲームをすることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">自分たちのチームに合った作戦を考えよう。</div> <p>○チームメンバーの特徴などを理解し、作戦をたてることができる。</p>	<p>☆自分で考えた作戦は、チームに合っているな。 ☆足の速い人達で、交差作戦を使うと強そうだな。</p>	<p>◇作戦に基づいて味方にボールを手渡したり、パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりできる。知③(観察)</p>		<p>◇場や用具の安全を確認かめている。態⑥(観察)</p>
	6 本時	<p>◎前時の振り返りから、そのチームに合った作戦を実行し取り組むことができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">もっとチームの特徴にあった作戦を選んでみよう。</div> <p>○チームメンバーの特徴などを理解し、作戦をたてることができる。</p>	<p>☆おとり作戦では、タグをとられる位置の前にすればいいんだな。 ☆足の速い人達で、交差作戦を使うと強そうだな。</p>		<p>◇自分の役割を理解し、チームの特徴に応じた作戦を選んでいく。(観察・ワークシート)</p>	<p>◇用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。態③(観察)</p>
	7	<p>◎チームでの実践を生かして、よりより作戦や動きについて考え、伝え合うことができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">チームの作戦の良かったところを伝え合ってみよう。</div>	<p>☆前より、作戦がチームに合って、動きがよくなったな。 ☆次は、また別のチームでやってみたい。</p>	<p>◇空いている空間を見つけて移動し、仲間と連携できる。知④(観察・ワークシート)</p>	<p>◇パスを出したり、ゴールにシュートしたりするときの工夫を友達に伝えている。思③(発言・観察・カード)</p>	

Ⅶ 本時の学習（本時は6/7）

1 ねらい

作戦ボード、ワークブック、児童用端末を活用し、作戦やゲームの動きを確認することを通して、チームの特徴に応じた作戦を選ぶことができる。

2 準備・資料

タグラグビーセット、ゼッケン、授業スケジュール、電子ホイッスル、作戦ボード、ワークブック、児童用端末、名前入りマグネット

3 本時の展開

学習活動	時間	指導上の留意点・支援	評価規準
1 準備体操、タグの準備をする。	2	<ul style="list-style-type: none"> 怪我無く、安全にドリルゲームを行うことができるように、班ごとに声を掛け合いながら準備体操を入念に行うよう声をかける。 活動の時間を十分に取ることができるように、タグラグビーセットを班ごとにまとめて取りに来るように促す。 	
2 ドリルゲームを行う。 円陣パス 2分 スネーク 3分 1on1 3分	8	<ul style="list-style-type: none"> 活動1, 2で、児童が十分な時間を確保して取り組むことができるように準備体操から、ドリルゲームまでを、自主的に取り組むように声をかける。 円陣パスでは、メインゲームでも相手の位置を意識したパスができるように、外側に向けた状態で行うパスと内側の状態のパスの両方を行わせる。 円陣パスでは、試合中でもパスを活用できるように、速いパス回しや遠くの位置でのパス回しなどに挑戦させる。 スネークでは、試合中の突然の方向転換やスピードの変化に対応できるように、ボールを持っている人を先頭にスピードや方向を常に変えて挑戦をさせる。 スネークでは、実際の試合を想定し、連続して後ろ向きにパスをしたり、ボールを持っていない人の位置を意識して取り組んだりすることができるように、放射状に並ぶものと直線状に並ぶものの2種類に取り組ませる。 1on1では、ボールを運ぶことが得意な児童の技術をより高めることができるように、実態に合わせて相手を2人以上にするルールを設定させる。 1on1では、安全に取り組むことができるように、広い間隔がとれるコートを設定する。 1on1では、安全に取り組むことができるように、活動を待つ人はコートに入らないように声をかける。 	

3 本時のめあてをつかむ。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が授業中にいつでもめあてに立ち戻り、確認することができるように、ホワイトボードに記載しておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">めあて：もっとチームの特徴にあった作戦を選んでみよう。</div>		
4 作戦を選ぶ。 【活動①】 チームの特徴にあった作戦を選び、その作戦を選んだ理由を話し合う。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・よりチームの特徴にあった作戦を選ぶことができるように、ワークブックを活用し、前時の振り返りや3つの作戦の動き方などを確認するよう促す。 ・個人の役割や動きを理解したり、考えたりして作戦を選びやすいように作戦ボードを積極的に活用するよう促す。 ・作戦ボードでは、ボールの動きやコートを使い方が理解できるように、コートが記されているボードを用意する。 ・自分の役割や動きを理解することができるように、名前入りのマグネットを使用する。
5 メインゲームを行う。 【活動②】 自分たちの作戦をもとに、試合を行う	15	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にフェアプレイの精神を学ばせるため、審判の指示に従うように声をかける。 ・ホイッスルの音が被らないように、真ん中のコートは使用せず、間隔をあけ両端のコートを使用する。 ・チームの課題発見や振り返り、次時のめあてをつかむ際に、自分たちの試合の様子を確認できるようにするために、活動を待つ人がタブレットで撮影を行う。 ・タグラグビーのルールに不安を感じている児童も自信をもって参加できるように、ルール・審判動画をアップしておく。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">自分の役割を理解し、チームの特徴に応じた作戦を選んでいる。(思②)</p> </div>
6 本時の振り返りを行い、次時の見通しを持つ。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・次の時間の作戦やメインゲームに生かすことができるように、本日選んだ作戦の有効性やチームの動きの反省などを話し合わせ、ワークブックに記述させる。